

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 すみれ)

事業所番号	0672300381		
法人名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームかほく		
所在地	〒999-3511 山形県西村山郡河北町谷地字砂田207-1		
自己評価作成日	令和 4年 10月 31日	開設年月日	平成 16年 7月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私たちは地域の中で、その人らしく安心して、楽しく笑顔で生活できる、温かみのあるホームを目指します」というグループホームかほくの理念に基づき、つば棟では「笑顔たやさず、和気あいあいとみんなで安らぐよつば」を合言葉に入居者様一人ひとりがその人らしく生活していけるように心がけ、日々の生活に張り生きがいをもってもらえる様に日々の業務を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 4年 11月 25日	評価結果決定日	令和 4年 12月 7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念「私たちは地域の中でその人らしく安心して楽しく笑顔で生活できる温かみのあるホームを目指します」を掲げ、この度異動になった新しい管理者や職員にも思いが引き継がれ全職員で実践に取り組んでいます。コロナ感染症の影響で地域との交流が出来ずにはありますが、利用者はホームでの行事(誕生会・敬老会・クリスマス会)や毎日のラジオ体操・リハビリ体操に楽しく参加しています。また行事食も楽しみの一つで笑顔のある暮らしに繋がっています。入れ替わった職員が多いので地域の方に顔を覚えてもらい事業所を理解してもらう為に広報紙の閲覧や運営推進会議録を地域役員に持参し、協力を得て運営に活かせるよう取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念に基づき、事業所としての理念とユニットごとの心得を作成し、毎日出勤時には確認し、リネンに沿ったケアが出来るように心掛けている。	地域の中でその人らしく～の事業所理念とユニットの心得「笑顔たやさず、和気あいあいとみんなで安らぐすみれ」を掲げ、職員は日々業務に追われるもゆったりした気持ちと笑顔を大事に利用者へ寄り添った支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの流行前まではロータリー花壇の清掃に参加していたが、今年度は昨年同様に新型コロナウイルス感染症予防のため、実施することが出来ていない。地域の方との直接的な交流は出来ていないが、広報誌を回覧してもらおう等地域のつながりを少しでも持つようにしている。	コロナ感染症により地域との交流が難しい状況が続き利用者は寂しい思いでいる。町内会に加入し広報紙を毎月回覧してもらい、少しでも事業所を理解して貰えるよう、そして情報の発信が途切れないように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年開催されていた健康福祉フェスティバルは今年行われず事業所紹介の機会は得られなかったが、随時事業所への問い合わせなどに対して情報提供をしたり、介護相談なども随時受け付け、認知症の方への理解や支援方法について情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議の開催が資料配布によるものとなり、開催することが出来ていないが、今後感染状況を見ながら実施し、ご意見を頂戴しサービスの向上に活かしていきたいと思っている。	運営推進会議も施設内での開催ができず書面での報告となっている。今年度から替わった管理者は運営推進会議録をメンバー宅へ持参して、顔を覚えてもらい話す機会を得て地域の情報が聞けるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は新型コロナウイルス感染症の予防のための情報提供やマスクや予防衣、グローブや消毒用品などの在庫状況などメールや電話での情報提供を行いながら、サービス提供に支障がないように協力して頂いている。 また町の介護保険サービス調整会議構成員になっており、様々な情報を共有している。	コロナ感染症に関する県や厚生労働省からの情報は町役場を通して連絡を貰っている。その他、困りごとについても随時相談し対応してもらい良好な関係が築かれている。地域包括支援センターとも情報交換をし、運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束について事業所内で研修を行い、身体拘束の具体的な行為や弊害について理解を深めるように努めている。また、身体拘束廃止委員会を設け職員会議の際に状況を確認し拘束のないケアに努めている。	身体拘束適正化のための指針を作成し、毎月の職員研修会で読み上げ、チェック項目で適正であることを確認している。勉強会では虐待防止に関しても職員自ら資料を作り交替で講師を務め、理解と周知に努めている。何よりも職員自身がゆったりとした気持ちで利用者へ向き合い「せかさない事」を全職員が心にとめて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修を行い、虐待防止に関する理解を深めるようにしている。入居者についての共通認識、対応について、申し送り時や職員会議、ケース検討会議等で協議、検討をしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度等を活用している入居者はいないが、研修会や勉強会の機会をもう少し活用し職員一人ひとりが理解を深めていけるようにしたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面を使用し、不安なく入居できるよう十分な時間をとって説明している。また、不明な点については繰り返し納得して頂けるまで説明し、丁寧な対応を心掛けている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会もままならない状況下だが、毎月のお便り等で入居者のご様子をご家族へお伝えし、意見や要望を聞き施設の運営に反映させている。また、玄関に「意見箱」を設置し意見の出しやすい施設づくりを行っている。	事業所近くに住んでいる家族は受診時などに会える機会があるが、遠方の家族はなかなか会えないので便りやスナップ写真等で全家族に近況を知らせている。希望があれば電話での交流を行い、意見等を伺っている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や日々の業務の中で職員からの意見や提案を聞き施設運営に反映させている。管理者は月1回の法人のブロック会議に出席し、意見や提案をブロック長を通じて代表者へ届くようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状況や体調面、意向の確認などを定期的に行っている。介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得のためのサポートを積極的に行っている。毎年の昇給等で職員の向上心維持に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回テーマに添った内部研修や法人内研修に参加している。今年度は外部研修には参加できないが、WEBセミナー等の情報提供を行い研修を受ける機会を確保できるようにしている。	コロナ禍で外部研修への参加が出来ないことからネット環境を整備し、WEBセミナーに参加している。内部研修の充実を図り各研修委員会が立案し勉強会を実施している。毎月2日間の希望休暇や育児休暇・介護休暇制度もあり職員のモチベーションになり、資格取得で正職員への登用もあり意欲に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	町の介護保険サービス調整会議、グループホーム連絡協議会に加入し交流の機会を持てるような体制を整えているが、今年度は交換実習などは中止となっている。当法人内でも各委員会や研修の開催により職員同士のネットワーク強化につながっている。	グループホーム連絡協議会が2年ぶりに開催されたが、人数制限がありオンラインで参加している。また法人内8事業所ではテレビ会議を行い意見交換し気づきを得ている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居利用開始時の情報をもとにご本人の要望を十分聞き取り、安心してサービスを受けられるよう支援している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族のお気持ちや不安に思っていることなどを伺い、それに対してお答えすること、また要望等を傾聴することで、安心感を抱けるような良好な関係を築くことに努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居利用開始時アセスメントを十分に行い、家族やご本人の希望に寄り添った支援ができるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、テーブル拭きなど日常の家事を一緒に行い、互いに支え合える関係を構築出来るよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と共に考えていけるような関係性を築けるように努め、ご家族様の状況を理解した上で、可能な限り協力して頂けるような関係作りに努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会などは制限せざるを得なかったが、昔慣れ親だ友人の話や趣味嗜好の話題などを提供し関係が途切れないように支援した。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で行うレクリエーションや軽体操を日課に取り入れ、毎日の交流の機会とし、入居者間の和やかな関係作りに努めている。一人ひとりに寄り添い孤立することがないように声掛けし、入居者同士の橋渡しになれるように努めた。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気兼ねなく相談できる窓口となるよう努めている。長期入院などで契約終了した場合でも、その後のサービス利用の再開や他のサービス利用についての情報提供などを行い相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや意向を聞き汲み取っている。その都度、日誌や個人記録に印、申し送りで共有してケアに反映させている。	利用者の生活歴を周知し、そのうえで職員が関わる毎日の生活から新たに気づくことがあり、「このおやつだと食べれた」「計算ドリルが得意だった」などの情報を共有し一人ひとりの持つ力を大切にして寄り添っている。言葉で伝える事が難しい方でもしぐさや表情からくみ取り、家族等からも情報をもらいケアに活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの生活環境や趣味、嗜好などを、ご本人やご家族への聞き取りを行い、馴染みの暮らし方の情報把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活の仕方、心身状態等を介護記録に残すとともに申し送りを行い、職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホームでの生活が自宅の暮らしの延長となり、利用者の思いや望んでいることを実現させたいと常に考えている、担当者を中心にケース会議で現状や変化、問題点を全員で検討し、見直しを行い、介護計画を作成している。	利用者の今できることは何かを見極め、役割や日課として取り組んでいることを大事にしたプラン作りをしている。モニタリング(観察)・ケース検討会議などで一人ひとりの情報を交換して対応を検討し計画作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護計画への記入と、ケアプラン実施記録のチェックを行い、職員間で情報共有をしながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>感染症の影響により、今年度も地域の方々との交流は殆どない状況である。感染症の状況を把握し、対策を行いながら交流の機会や作品展示等の機会を作り、参加していきたいと思っている。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は、本人とご家族が希望する医療機関で受診ができるよう体制を整えている。受診の際は、書面等で日頃の様子や利用者の状態をお伝えし、適切な医療が受けられるよう、支援している。</p>	<p>入居前から継続し家族付き添いで通院する方や協力医の往診を受ける方など、希望のかかりつけ医を選び、受診時は必要に応じて睡眠や食事などのデータも添付し情報提供している。結果は家族等と共有して、適切な受診支援を行っている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の体調や状態を伝え相談し、適切な看護を受けられるように支援している。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>緊急の医療機関が近くにある為、入院の必要な場合にはスムーズに対応が出来る。医師とご家族と連携、情報の共有を行いながら、安心して治療できるように対応している。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に、重度化した場合の説明を行い同意を得ている。可能な限り当事業所での生活が出来るよう、その都度ご家族や医師と十分に話し合いを行いながら対応している。</p>	<p>重度化した場合の指針に従い、食事や水分摂取などの状態を診た主治医の判断で、現在の生活を継続するのが難しいことを家族等に伝え、今後の方針を話し合っている。状況に応じて医療機関や特別養護老人ホームなどへの移行希望があり、また同法人の施設に入所する方もおり、でき得る限りの支援をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、定期的に心肺蘇生法やAEDの使い方について研修を行っている。昨年度同様に内部研修のみとなっているが普段は消防署から講師を招き指導してもらっている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災通報訓練を実施している。災害時に備えて食料の備蓄の確認、ハザードマップの把握を行い災害時に備えている。地域の方々との連携はまだ十分とは言えないが、今回の避難訓練の際に電話連絡だけではあるが協力を依頼し協力体制作りを行っている。	隣接するデイサービスと合同で夜間火災を想定した総合訓練を行い、一連の流れと役割を確認し、地区長の協力を得て電話連絡も試行している。わかりやすい場所に緊急連絡先を貼り出し、定期的に消火栓の確認や自主点検も行い有事に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応を行っている。又、親しき中にも礼儀を踏まえた上での対応を心がけている。	利用者が交替で行う食事前後の挨拶や家事などできることはやってもらい、役割を持ちその人らしく誇りをもって生活できるよう支援している。入室時や普段の声掛けも語調に気を配り、方言も織り交ぜながら親しみと尊敬をもって対応している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの希望に対して傾聴や声掛けし、希望に沿った支援が出来るよう働きかけている。自分の意思を伝える事が出来る人と伝えられない人がいるため、出来るだけ声掛けや関わりを多く持つように努めている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを把握し、本人のペースを保てるよう出来る限り希望に沿った生活が出来るよう支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせた服を用意して着てもらっている。出張で来て頂いている理容師さんから、髪型についての希望を聞いてもらい散髪してもらっている。日々、気持ち良く過ごせるよう整容、身だしなみを整えている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食やバイキングを行い楽しく食事が出来るよう支援している。また誕生日にはおやつの時間に好みの物などを伺い提供している。食事のあとはテーブル拭きやお盆拭きを手伝って頂いている。	おかずは配食サービスを利用してごはんと汁物は職員が調理し、毎月のご馳走メニューや希望に応えた出前などで変化も楽しんでいる。ワンプレートや軽い器など認知能力や体力に合わせて食器を選び、おいしく食べてもらえるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人に合わせて食事形態を工夫し、水分量・食事量・栄養が十分摂取できるよう介助しながら支援している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に応じた口腔ケアを実施している。状態に応じて訪問歯科往診を利用し、口腔内を清潔に保つことが出来るように努めている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけを行い出来るだけ失敗を減らし、トイレで排泄が出来るよう支援を行っている。	排泄表を活用し適時の誘導と最適な排泄用品を用い、おむつの方も立位可能であればトイレに座ってもらい気持ち良く過ごしている。一人ひとりに合わせた介助が不快感の減少に繋がり、大声発生などの症状に改善が見られ、落ち着きを取り戻している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日身体を動かす体操をしていることもあり、毎日快便のご利用者様もいる。 また、排便表をチェックしながら食事や水分の摂取状況を把握、下剤で調整しながら便秘解消に問組んでいる。下剤の調整が必要な際は主治医に報告、相談している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日バイタルを測定しその日のご利用者様の体調に留意しながら入浴介助を行うことができた。入浴など和んでおり好評の言葉も聞かれるためご利用者様にあった入浴支援をしていると考えられる。	3日に1回を目安に、歩行が不安定な方の脱衣室までの車椅子移動や大判の足拭きマット設置、身体状況に合わせてリフト浴も活用し、安全を最優先に入浴してもらっている。浴室内では職員と会話が盛り上がり、大切な時間となっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週に1回リネン交換をしご利用者様がリラックスして過ごしていた。また、居室の室温もご利用者様一人ひとりに合わせた設定をし快適に生活していた。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の調整、変更が必要な場合は職員間で話し合いを行った上で主治医に報告、相談していた。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人ひとりの出来る力に応じて家事作業を行って頂いている。生活歴に沿った支援を行うことで生きがいや役割になっている様子も見られる。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年に続き新型コロナウイルス感染症の予防のため基本的に外出は必要最低限に控えている状況である。密にならないような状況でドライブなどを行った。	感染対策や体力低下で外出予定をあきらめた事もあるが、感染状況を見ながら花見や紅葉狩りなどドライブに出かけ、降りずに車窓からの景色を楽しんでいる。地域団体から贈られた花苗をプランターに植え世話をし、外気に触れる機会もつくっている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理が難しいため、ホームでお金をお預かりしている。購入したいものがあれば本人より希望を聞き、職員が購入し対応している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人や家族の希望があれば対応している。届いた手紙はご本人に渡し、読めない場合には読んで聞かせるなどの対応をしている。家族や親戚の方との電話対応も援助している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除は徹底して行き清潔に保てるよう努めている。季節に応じた飾り付けや写真を飾り、居心地の良い空間づくりを心掛けている。	ホールでは全員が集まり体操や計算問題、懐メロなどに興じ、時にはユニット合同でゲームをしてにぎわっている。利用者間の関係にも配慮しながら食席を配置し、協力し合って家事手伝いをする姿も見られている。空気清浄機や加湿器などを活用しながら換気や消毒をして感染防止対策を行っている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の関係性を配慮しながら食席を決めており、常用に応じて適宜変更もしている。フロアにはソファや椅子を設置しており、気の合う利用者と自由におしゃべりができるよう、職員が橋渡しをするなどの配慮も行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅から使い慣れた物や愛用していた物を持参して頂き、住み慣れた環境に近づくように配慮している。必要に応じて布団やベッド等、身体状況に応じた環境づくりに努めている。</p>	<p>居室には洗面台とクローゼットまた全室に眠りスキャンを備えたベッドや必要に応じてセンサーも併せて設置している。テレビや衣装ケースなど使い慣れたものを持ち込み、歩行状態や習慣に合わせて配置している。気の合う利用者同士で訪問し合ったり、危険を伴う行動を回避するために居室を変更することもあり、安全にその人らしく過ごしている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室には名前の書かれた表札を掛けており、自らの暮らす場所、プライベート空間であるため配慮しながら生活環境を整えている。居室内にはソファや椅子等を設置して、安全かつ安心して生活が出来るように努めている。</p>	/	/	